

昭和三十五年十一月十四日招集

第五回市議會臨時會之議錄

館山市臨時会々議録

昭和三十一年十一月十四日招集

十一月十四日

一現在議員三四名を以て次の通り

- | | | | | | |
|----|---|--------|----|---|--------|
| 一 | 番 | 山本 昇 | 二 | 番 | 脇田 順一 |
| 三 | 番 | 三沢 節 | 四 | 番 | 志村 信作 |
| 五 | 番 | 岩崎 静哉 | 六 | 番 | 鴻田 繁 |
| 九 | 番 | 吉田 勇治郎 | 一〇 | 番 | 佐野 信 |
| 一一 | 番 | 川名 房吉 | 一二 | 番 | 黒川 佐太郎 |
| 一三 | 番 | 長谷川 光江 | 一四 | 番 | 江口 徳太郎 |
| 一五 | 番 | 小林 寛之助 | 一六 | 番 | 石井 孝 |
| 一七 | 番 | 安沢 徳順 | 一八 | 番 | 安西 政治 |
| 一九 | 番 | 法木 嗣郎 | 二〇 | 番 | 荻生 四七郎 |
| 二一 | 番 | 後藤 藤ゆき | 二二 | 番 | 田中 禄郎 |

二三番

吉田辰雄

二四番

飯田至成雄

二五番

鈴木市藏

二六番

鈴木孝太郎

二七番

田中思藏

二八番

加藤良太郎

二九番

遠山ヨネ子

三〇番

北山茂雄

三一番

田村喜兵衛

三二番

鈴木孝

三三番

山口幸三

三四番

松本藤太郎

三五番

山口康

三六番

鴻貫壮作

一議事日程第一号

十一月十四日午後二時開議

第一陳情書目

第二議案第八号

都市計画街路事業橋梁新設工事請負契約の締結

について

第三〃九号

第二中学校舎増築工事請負契約の締結について

第四〃九号

増改築

第五議案第九号 第二中学校々舎の一部売却について

一 本日、会議に付く事件

議事日程に同じ

一 法第百三十一条による出席説明員

市長 田村利男

助役 小出武男

収入役 完戸貴

建設課長 山崎口実
教育課長 工藤和幸

庶務課長 鶴沢寛

一本議会の事務局長書記および職員

事務局長 高梨清一

書記 太田博雄

職員 兵藤恭一

職員 山口 晴之

出席議員 三名

一次席議員 三名

一、番 佐野 信 二九番 遠山ヨネ子

三、番 北山 茂雄

議長(山本 昇) 冒本日の出席議員数二九名、これより第五

回市議會臨時会を開催いたします。

本臨時会の議案審査のため、田村市長、小出助役、寛戸收入役、山口課長、新井課長、工藤教育長、鶴沢課長以上の出席を求め、こので御報告いたします。

この際議長より御報告いたします。

まず去る九月三日招集の第三回定例会において議決された「国民年金制度に関する意見書」につき

まゝては直ちに草案を作成し、まゝて内閣総理大臣並に厚生大臣へ送付し、まゝした。

一 十一月十四日市川において県下議長会に、鴨川で南東市議会議長会理事會、さうに二十七日静岡県に、まゝして全国市議会議長會を開会し、まゝした。いざいざこの會議にこの問題へとりまぐられ、まゝしてその實現方を強く要望することと決定し、まゝしてそのいづれの関係方面へ要望し、まゝしたので御報告いたしまし、まゝ。

又、お同日採択され、まゝに西岬神戸、高崎より白浜に通ずる道路舗装化促進に關する陳情書の内容に、理に、まゝしては市當局と協議の上、草案を作成し、まゝして果當ある都合等もあり、まゝしたので十一月二日市長と共に高橋県議、来内で、知事、議長

土木部長、總務部長並に關係課長を訪問し、
了して促進方の文書と提出し、その実情を詳細に
陳情し、了し、たところ、すでに一部実施する計画
も出来、了し、た。さうに年度計画に採用し、着手
できるやう協力する旨の話し合ひを、了し、た。
のでこの点も合せて報告し、了し、ます。

続いて先般と申しあげ、了し、たやうに、一月一四日市
川市におき、了し、て開催され、了し、た県下の議長
会、一月二〇日の関東市議長会、理事會、一月二五日
の全国市議長会、理事會等におき、了し、て、お千円
に配付のやうな議案に、それ、可決され、政府當局に
強く要望し、了し、選挙後の新政府の決定され、次第に
強力に推進する、こと、決定し、了し、た、この、
点も合せて御報告し、了し、ます。

次の会議録署名員の決定を行います。

従来の例に準ういまして本臨時会へ署名員に一番議員
川名孝吉君、二番議員飯田義男君、以下内君と指名
いたします。御異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

議長(山本 昇) 君 御異議ございませんと認めます。

さうして決定いたします。

議案を配付いたします。

(議案 配付)

議長(山本 昇) 君 配布ものはありますせんか。

「はい」と認めます。

続いて会期へ決定を行います。

本臨時会の会期につきまして議長運営協議会の
意見は本日一日というものであります。

おけりいります。今朝を本日一日と定めます。
とに御座る議ごさいませんか。

(「是」議「う」と呼ぶ者あり)

議長 山本 昇君 御座る議「う」と認めます。

よってさよう決定いたします。

本日の議事はお手元に配付の日程表により行います。
これより議事にあります。この際本臨時会の議案に
ついて市長の説明を求めます。

(田村利男 君 登壇)

市長(田村利男君) 本日ここに臨時市議会を招集し緊急
議案の審議をお願いすることになりました。

各位には御多忙のところ多数御参集下さいますこと
感謝申し上げる次第であります。

本日も市工務局の案件は第一日都市計

画街路事業 道路の湊川橋梁新設工事、請負契約と安藤建設株式会社と五百五十万円とも、締結しようとする件であります。第二は第二中学校四教室の増築工事と三百四十七万円とも、第二馬建設株式会社と請負契約と締結する件、第三として第二中学校四教室を取り壊しその場所に入教室増築する工事の請負契約を五百四十八万九千八百円で吉田工務店と契約しようとする件、第四は第二中学校の取り壊しと屋根材と小屋組部分と工事と請負、と吉田工務店と対し六十六万六千五百円で却下しようとするものであります。このほか陳情書一件ありますがいずれも理模の大きい案件でありますのであえて本日臨時市議会を招集し御審議をお願いするにとりまして、

リトとぞ慎重御審議の上御賛同下さいますよう
お願い申し上げる次第でございます。

以て甲一スグて御挨拶にいたします。

○最長山本 昇一君 日程にアッとして陳情書と工程いっ
ます。

(書 記 朗 読)

陳情書

○三四番(松本 藤太郎君) 当局にお伺いする中で下水道処理に
ついてどういう構想も現在お持ちなされてあるか、この点
についてお尋ねいたします。

○市長(田村 利男君) 環境衛生の問題につきましては文化都市
としてやっていく館山市におきましては問題が、こ
こに三つあるわけでございます。

まず第一は、スグてスグては伝染病の問題、第二は

考へるべきことが陳情になりまして尿処理の問題
コウロ塵芥の処理 この三つのものはぜひとも実現しな
ければならぬものだと思つております。

市におきましてはすでに伝染病の問題も市会の皆
さんに御相談いたしまして着てこれが実現するかの
うといろいろな故障がありまして足
踏み状態になりましてありますがあくまで市はこの実現
を貫徹する意志をもつております。さうに塵芥の処理
―尿処理の問題につきまして当初市におきまして
は年次計画として昭和三十一年交に実現をはかるよ
う大休事務多量において内定してあったのであり
ますができれば三六年交 最悪の場合でも三七年交
までにはこれうのものを完成したいと目下事務当
局において準備中でありましてござるだけ早く

完成を期していると思つてゐる次第であります。

○三四番（松本藤太郎君）教育長さんにお尋ねいたしますが、正確に覚えておりますせんが、昭和三三年度へ決算委員会だつたと思ひます。各市内の小中学校のし尿処理に、あつて當時各学校でもできるだけ登校前に用ゐて足つてゐたというふうなことも、先生が生徒にいつたことがある。私学校にいつて調べまして、教育長さんにお尋ねいたしますが、そのとき、日んの一割かせいゝ割は、P・T・A. かつ負担されてゐる程度であると、大いなることではないという御返事であるが、それが誤つております。

とりあえず市民へし尿処理ということを一挙にやるといふことも、館山市の財政からいつて困難であるから、学校関係、市役所関係あるいは公共的の面

の―尿処理を一応やるという方向にいつてはどうか
というところに、**カ**―**マ**―で教育長さんはその通り
やりたい。それは厚生課とよく相談を―てやる。

こういう御返事で着々推進されてまいいます。市長
さんの遅くも三十七年度にやるということでございま
す。内容はどういうことなのか、また御相談をさ
さるのか。三三年交にお伺いしたときのように学
校、市役所あるいは他の役所関係とやるのか、全市
内をやろうというのか、その点具体的に御尋ねいま
す。

市長(田村利男君) 答へて助役についてさすので御了承
願います。

助役(小出武男君) へい、いまの松本さんの御質問でございま
すが一番困つてゐるのは、まず学校関係であつて

ことは事実でございましてこの点につきましては
 教育長の方からいろいろ話がございます。一応従
 来の市の業者に優先的に汲取りをさせておいて、その
 ございましてこの一尿処理は市のついでに市営
 の全体的な処理施設を設けなければならぬのじゃ
 ないかと踏み切、それわけにございまして今市長が
 申されますようにできるなら来年度中にも完成
 しない、そういう熱意をもつてある次第でございま
 すのでこれができることにふりまして学校はもちろ
 ん一般の密集地帯の糞尿処理問題と解決できる
 のではないかとかように考えておる次第でございま
 す。

○四番（志村信作君）糞尿処理の問題につきましては三六
 年度、三七年度でやると、何人対象かというところに對

しては四百人だと　そーで海に投棄せず陸地に作るとおっしゃるのです。が場所とつづきましては避病院とか糞尿所は地えの人々が早く耳に入れまして反対者がござりますので　また相当の面積をとることもありますのでこの場所だけは南かまか、たのです。がなま／＼この陳情書が提出されて学校だけでなく市全体の面内題として考慮にわたってくれまことに結構だと思っております。

大体糞尿処理所と体育館の二つとも、である市は全国的にみましても中堅都市でございまして。その位重要なまた全責のかゝる問題ですけれども市では市長さんのおっしゃる通りでや、ていまいけるのですか。

市長(田村利男君)　努めて四番議員のおっしゃるようになつて努力

する決意をもつております。

六番(鴻田 繁君) 私も本陳情書には名をつうねてあるものでございますが説明をするまでもなく大体おわかりだろうと思っておりますが、ちよつと例をあげて簡単に申してみますと、高崎あたりが非常に困つてゐる。汲取料が配当になつておりますが、あそこは遠隔の地でありまして坂が急であつたうとりとまてくれまい、非常に困つて P.T.A. でお文代りでまうて埋めたい。今東京都の糞尿は大島から先にもつていって捨てるのを近辺に捨てるために流れてまつてもぐる人の口に入る。そういうわけですから海なんかとても捨てられない。海でかさいでいる部落なんですから海岸へもつていって掘つてそこに埋めてある。大体の学校がそうである。私は考えておりますからこれは一時も早く

や、ていたいたと存じます。市長さんのお
話も承わってそれに信頼して実現していただい
くことを希望するものであります。

この陳情書はできますれば^全会も一致をもって御
採択願いたいと思う次第でございます。

○三番（田村喜兵衛君）今、糞尿問題について市長さん
の考えはよくわかりますが、それを捨てる方法はど
ういうふうにするか、それとまアともういた
いと思ひます。

○市長（田村利男君）市としては伊戸の先にも、ていつて
捨てるというふうなことでよく陸上処理という
考えでありまして、その額は四千万に上るか三千五
百万に上るか、考慮中でありまして、一の場合
の問題で、伝説不病舎のごとく市の決意がそれでも

足踏みせざるを得ない状態になりまして、この問題は千倉へも、ていつて建設するわけにもいきませんので、どうしても館山市内の特別の場所に作らなければならぬと思います。従いまして、今後市としては十分考慮し、やりたいと思います。その節にはぜひとも市会におまきして、御協力のほどをお願い申し上げます。

○三番田村喜兵衛君 市長、話は良くわかりましたが、別に東京都もそれを作れないで、館山市ではどういふおぼつかない、一口二口の船を作って大島にある方が近いからそこに捨てるのが早いかと思っております。市長さんの話は遠い話だと考えております。

○三六番鴻貫壮作君 いずれにしてもこの問題は重大

は問題でありますので、今までのようではおふく腰でなく本腰を入れて研究してもいいと思います。そうして一日も早く具休化する日を待ちたいと思います。

その意味でこれを採択すると御懇議ありません。

。議長山本 早(名) お諮りいたします。

本陳情書を採択いたします。御懇議ありませんか。

(「懇議する」と呼ぶ者あり)

。議長山本 早(名) 御懇議する」と認めます。

よって本陳情書を送付いたします。

なお、この際合せて御連絡いたします。

本陳情書は、他に十日十一日付で館山市宇治郡医師会、会長、剣持、帝三氏より、郡市医師会の要望として

一公衆衛生の良地ハ市町村に於いて早急にし不
処理施設の設置とされるようとの要望書を送付
されておりますので申一添えます。

。議長山本 昇(名)読いて日程第二議案第八号、

(書面朗読)

議案第二号 都市計画街路事業道路橋梁新設工事請負契
約の締結について

。建設課長(新井 重助) 臣議案第八号について御説明申し上げ
ます。

館山市の都市計画街路事業でございましてが今年度
事業という事で平久里川の下流に橋梁を
架設し道路と取りつけまして一応完成するかと
なっております。橋の下部構造は昨年交

に於いてでましてあります。先の議会に於きまして橋梁の上部構造いわゆる桁の架設をするよう

にいたして、理在工事を執行してあります。

その上に舗装をやりまして完成でございますが、それは地元の業者でもござるという考へから東京の業者を除きまして今度入れないのであります。それと池貝の鉄鋼社の道路が若干残っておりますので、それととりつけまして改築することになりまして、

本庁の橋梁ということとで御不審の点でもあるかと思ひます。但し説明に通りその上の舗装をやるということとであります。これを十月一日に館山市工業株式会社

山崎工務店 安藤建設株式会社 田沢建設株式会社
白井建設株式会社 中野組 大滝工務店 へ七社と
指名いたしまして入れたい。結果 安藤建設

株式会社五百十万円で最低でございまして、
安藤建設株式会社と契約いたしまして本工事の
完成を——と考えております。

このたびの工事は道路のとりつけ長さ六メートル
幅は一メートルには上る、以上で本工事が完成する
そのほかにもう一ヶ所橋梁をございします。これは建
設者の承認を求めてございまして、承認を求め
て曉に入れますと考えております。

二四番(飯田義男君)今の説明の中で定う期間がいつ
ということがいわれなかつたのです。いつまで完成
の予定ですか。

建設課長(新井重助君)現在、予定は橋梁の桁の架設が
十一月一ぱい、道路の方は三月一ぱいに完成する。

それ以外に余裕がございしますので、これは三月一ぱいに

完全に完成すると思つてあります。

議長(山本 早) 議長第ハ一号討論省署原案通り可決
いります。御異議ありませんか。

(「異議ナシ」と呼ぶ者あり)

議長(山本 早) 御異議ナシと認めます。
よつて本案は原案通り決まらう。

議長(山本 早) 就いて日程第三議案第ハ九号を工程ハ
ナシとする。

(書記朗読)

議案第ハ九号、第二中学校校舎増築工事請負契約の締結について
庶務課長親沢寛覚君議長第ハ九号について御説明申し上げります。
本工事は第二中学校のハ教室増築の中へ将来科学館
に充てるべき校舎でございます。ハ教室ニ階建てでございます。

十一月五日、地元の業者 石井工務店、富士建設、関
 二務店、渡辺政雄、渡辺量一、山崎工務店、対馬建設
 田辺工務店の八業者を指名いり、了、了、了、了、了、
 々と、ろ、最低の対馬建設林利全社取締役社長対馬義
 一と契約するものでございす。 図面を添えてござい
 ます。が、總坪数、百二二、八坪でございす。 構造は
 木造二階建四教室という工事でございす。
 竣工は一六、予定として二月一ぱいに竣工させたいとい
 うものでございす。

三六番(鴻貫壮作君)ちよ、と、お尋ねいり、ます。が、現在
 いろいろと教室にお使い、です、て、将来科学館にお
 使い、になるというので、下、が、とういう予定でいるか、そ
 へ予定とお聞せ願、い、と思、います。

科学館と教室との切換えの時期です。

○教育長工藤和平君にお答えいたします。

一応補助の関係等で普通教室で建設してまいります。が、学校当局と話し合ひをしましてできるだけ早い機会にということとは三六年度の中頃までと科学館に転用する。

○三六番(嶋豊太郎君) 覚えていて下さいます。

○三四番(松本藤太郎君) この増築は二中の学区民から二百五十

万の金が入ってあるのです。が教室として使うのに

向付合でやるということは向違つてある。補助金

をもううたがなというわけとも思ふに悪い。

あとで科学館にするというのです。がその時に設備員

とか科学館にするに必要な費用がかかるのじゃないか

と思います。がそういう点はどうなんですか。

○教育長(工藤和平君) お答えいたします。

とりあえず部屋の坪数において科学館に転用で
 きるよう三〇坪というのを二階上階下あつて
 一つずつ作ってあります。電灯工事をやる三十万円
 は金とってございますのでそれでやる予定でがスネ
 道につましては転用直前に直ちにその工事が
 できるという予定でございます。中施設のつまして
 してはP、T、A、におましてさうに五丁万月位
 いたけるのじゃないかと思うのでございます。

〇三四番 松本藤太郎君 四教室全部科学館になるかどう
 か。それかうP、T、A、におまして五丁万とい、ます。そ
 れは最初の事は申し入れ以外にさうに五丁万という
 ことであるのか。もしそうだとすればあまりに美勢
 教育に對してP、T、A、に對しておんぶしておるんじゃない
 いかと思ひますが。そうでなければ結構ですが。この

点についてお尋ねいたします。

○教育長（工藤和幸）君 四教室全部を科学館として使用する予定でございします。

まあさうに五十万と申しわけはP.T.A.から予定されてあるのでその金を受け入れたいと思ひます。

○二四番（江田徳太郎）君 課長さんと同じですがこの予算はこの程度であるか伺ひます。

○庶務課長（鷗沢貫資）君 これは次の議案と一緒にいささかに予算とまゝでいさします。

その予算は九百二十万九千円でございます。

○三五番（鈴木市藏）君 教育長さんに伺ひますが館山市にありける中学校に対して今後とも科学教育は必要性があるのですか。

○教育長（工藤和幸）君 はい、今の御質問にお答えいたします。

科学館は国家が科学教育に重点を置いて
 いる以上、われわれとしては市内の全部の学校に
 かくの如きものが出来るのが理想だと思ひます。が現在の
 市の財政の状態ではいかんともいへない。まことに
 残念であるが各校にかくの如き建築はできぬ
 へじやないかということも憂うものであります。

二五番(鈴木市蔵君)では伺ひますが政府が指定すれば要
 するに今いふのは、今の中学校はおそらく不可能だ
 ろうと二中の場合はこれは政府で指定すれば科学
 教育だ。一はむしろこれは義務教育である。P.T.A.
 寄附がなければだめだと、どういうわけでもって義務
 教育だかうP.T.A.に負担をかけずに市独自でやれ
 ないか、この点でございます。

教育長(工藤和子君)お話しへように義務教育であり

また以上全額国庫で公けの費用でまかなうのは当然でございまして、今中学校の問題は生徒が三十七年度まで除々減ってきていくいゆゆ急増対策に迫られてあります。まして普通教室の足りないことをどうするかということとが目下の急務であらうと思っております。

二つの場合におきまして、私もはとりあえず六教室を建て、そうして現在ありますところの特別教室の六つをさうに転用して一三教室の不足に充てるという考えであります。ところが、科学館の問題がございまして、なので八教室、こういうことになつたのでございまして、あくまでも普通教室を重点で、そういうこととやらなければ理想の達成はできません。こう思うわけであります。

〇二五番(鈴木市蔵君) 科学教室はP.T.Aへの負担でなろう

普通教室は市の予算で作つてやるというじゃないか、
 こういふふうな制度をとつていふと、金のない
 部落では中学校の増築は不可能だと思ふ。
 一中の対策はどう考へておられますか、この点について、
 の教育長工藤和平君「一中はつぎの三十七年度のビー
 クは四教室不足になるわけでございます。ところが
 一中の場合も特別教室をもつてありますのでそのうち
 の一つを転用してもうつて残り不足へ三教室は来
 年度中にも建設したい。こういうふうな考へで
 ございます。」

三十五番（鈴木市蔵君）三十七年度で作るといふが現在困つて
 あるのではないですか。私は来年度は必ず作ると
 いうことに対して、質問を打ち切ります。今後とも
 地元へ金がなくても義務教育であるから、さういふ点

はせの市ありと一ても一つ考慮してもらうたい。

以上でございます。市長さんううーくお願いいたします。

・三六番(嶋貫壮作君) 今、御答弁にちよつと不信な点つ
がありまして改めてお尋ねいたします。三六年年
の中旬まで科学館に転用すると学年が変わ
るときかえろという方針なうなすけるのですが、
その途中でかえろということについてうなすけな
いのでお尋ねするのです。来年度は学級教がいくつ
あつて教室はいくつになるのですか。

・教育長(工藤和幸君) 学級教三三でございます。

現在三三普通教員でございます。特別教室が一
三六年度に四学級まくなるのです。

・三六番(嶋貫壮作君) 三三に於てかえる教が四つな人で
ございますが、そうすると三六年度の中ばにされる

教室に便れずとすむわけです。

。教育長(工藤和子君) 現在普通教室が三三、それで三五年
 後に四学級増強します。ので特別教室を四つ転用して
 あらわけです。

。三六番(鴻貫水作君) 特別教室はその後手つかずに残る
 わけです。ね。おの——いのです。ね。マ——こういう意味
 であれば別な問題に解釈しますよ。

科学館を建てるのだけれども科学館といつたので
 は通りが悪いとかというあんた方の言いがあから
 それで教室という名前を建てるのだと。そして科学
 館と——と充てるのだ。こういうお話であれば
 別にいいんです。どうですか。

。庶務課長(鶴沢貫資君) 私にお答えいたしますが、結局
 普通教室三三と特別教室二二といううは三四年交現

左でございます。三十五年度に四学級ふえまして

三十六年度に四学級ふえるわけですが、現在四教室足
りなのは特別教室を使つてある、ことゝそれに四教
学級ふえているわけです。

○三六番(鴻貫壮作君)学級数が三六ですか。

○教育長(藤和幸君)三十六年度にぎりますと四〇学級にな
る。三十五年度が三六学級です。

○三六番(鴻貫壮作君)もう一回お尋ねいましてすが中ばにい
つて科学館に転用というのはどういふふうなお目上
をたて、おいでになるのですか、切り換えるのになん
いう方法で切り換えるのですか、その方法がわからな
いと切り換えるとお、いや、なばかりではその場になつ
て実は切り換へられない、こういうことになるわけだ
それでお尋ねするわけです。

。教育長（工藤和子君）今の問題につきましては現場が大変混乱するおそれがありますので学校長と十分打合せをすることになりそうです。

。二番（河津太郎君）科学館というのと一般教室は構造も違いますが、という点が違うんですか。

。教育長（工藤和子君）科学館には補助がございまして、

。二番（河津太郎君）そうするとあんな方のアヤリになつてことは政府に對しては一般教室を作るのだ、補助金をもらうとそうしてP、T、Aに對しては科学館を作るのだといつて支出させる。こういう姿なんですかね。

。大番（堀田繁君）今度、まずと三六年度は二中は四口学級でございそうです。そうして教室は三六です。

そうするとあとの四学級はどんなふうにして受け入れらつておりますか。

。唐務課長（穂沢貫資君）ニニ学級に八教室作るから四〇

教室に可るわけだ。

。議長（山本 早（君））議案第九号 原案通り決定した

ーます。御異議ございせんか。

（「異議アリ」と呼ぶ者あり）

。議長（山本 早（君））御異議アリと認めます。

よって本案は原案通り決定いたします。

。議長（山本 早（君））続いてこの際お諮りいたします。

次の日程第四、第五の二号は関連性がありますので

一括上程いたします。と思ひます。御異議ございませ

んか。

（「異議アリ」と呼ぶ者あり）

。議長（山本 早（君））御異議アリと認めます。

よって目録第四、第五議案第九〇号並に九一号を
一括工程いづるす。

(書目記 朗読)

議案第九〇号 第二中学校々舎増改築工事請負契約の締結について

九一号

校舎の一部売却について

庶務課長(親次)貫賞君 議案第九〇号 九一号とつゞきして

御説明いづるす。

九〇号の方は講堂の右側の四教室、現在これが平屋で

これを二階建にいづるす。平屋の四教室が二階建へ

教室というでござりの形になるわけでございます。

この講堂の脇に校舎が二階建四教室ございす。

それに続いて平屋の四教室がござりす。それに

一教室取り壊して反対側にもってくる、そうして

そこの二階建八教室を作ろうというものです。

その工事請負契約が館山工業、吉田工務店、宇山
工務店、高橋工務店、笠子工務店、安藤建設と
指名いまして二月五日にこれいまして
結果最低価格五百四十八万九千八百円、吉田宝三
郎が落札いましてこれと契約いたしたという
ものでございまして、それで平屋建の屋根材でござ
います。が、これを二階建に使うわけにございましてが
補助単価の関係でこれを業者から払い下げまし
て、そしてこれを使うというところで払い下げいた
次第でございまして、この払い下げ額が九一号議案
の六十六万六千五百円で吉田宝三郎に払い下げ
しようというものでございまして

二四番（江田徳太郎君）＝中の校舎の点でございましてが
先ほど単価の額を聞きました。それで、村島建設と吉田工

務店の単価を合せてやっておるのだという御説明が
ありまして、が、なぜ一緒にみておるか、別々に入れさせ
ておるのだから、結る別々の校舎へ予算は違ふん
じやないかと思うのだけれども、

。庶務課長（鶴沢^貴寛）これは工事が別々に設定したわけ
でございます。

——の予算としては八教室の予算と

単価は万八千円と、たわけでございます。その範囲

内で設定したわけでございます。もちろん工事

そのもう、単価は違つて参ります。——の補助単

価というものは万六千七百円という国の補助単価は

ましてあります。

対馬建設との契約では単価は万八千二百五十七円

に上つてあります。——の校舎の方は新築と

増築と改築と両方含まれてあります。増築分は

単価は二万八千三百三十円におさえてあります。

二四番（江田徳太郎君）そういえますと学校の予算は二万八千円というのが坪当りでございすね。

庶務課長（鶴沢貴貞君）予算計上の場合にはそれで盛ってあります。予算計上の場合の数字をちやうと申しこざります。

二中増築工事、当初予算では二四五坪 単価二万九千円掛りまして七百十五千円という当初予算でございす。それから今度せんどうって、定例会で

追加いまして、予算でございます。が今度考之方を變更して新築分八教室＝棟、これが二四八坪、二万八千円を掛りまして六百九十四万四千円、

それから改築分の四教室、これを一＝三坪で単価一丁五千円で百八十四万五千円、それから便所、増築が一＝坪 単価三万五千円で四十一万五千円、

それから工事費の二〇〇分の一が事務費といふ。予
て六万五千円 合計九百三十九万九千円 この事務
費を除きまして予算をだしていった。予

。四番（江田徳太郎君）これだけの予算を八百九十何万
で切、それでけです。収

。庶務課長（鶴沢貫資君）切ったのではびく入れの結果

です。九百三十九万九千円から今の請負をいならし
た額を引きますと二十四万ばかり予算が余るわけ
でございます。それはまだこの予算には電燈工

事水道工事 ガス等の予算は入ってありませんが
これは別に業者を指定いましてもう一度契約
したい。この二十四万はそうして工事やりな
い。思っています。

。四番（江田徳太郎君）売却の方で屋根材と小屋組と

いうことですがこれは古さ使うのですか、

。庶務課長（鶴沢貫覚君）そうでございます。

。四番（江田徳太郎君）そうすると二万八千円引いてもいい、
ことになるわけですね。

。庶務課長（鶴沢貫覚君）従来業者に一応お下がりして
業者はそれを使うわけですからその金額が入
ってくるわけですね。ですから単価は落ちますという
ことです。

。議長（山本 早一郎）議案第九〇号 九一号 討論省署原案
通り決定します。御異議ございせんか。
（「異議なし」と呼ぶ者あり）

。議長（山本 早一郎）御異議なしと認めます。
よって両案は原案通り決定されします。
以上で内会います。

三時一五分肉会

昭和三十一年十二月十四日

右会議の次第を録し、署名す

館山市議会議長

同 署名議員

同

山崎 小八
川崎 義男
佐々木 義男

